

■笠原白翁 蘭方医。決死の覚悟で峠越えして痘苗をもたらし、藩医登用を辞退してまで、種痘の普及に尽力。

かさはらはくおう

浮世風呂・1809＝ 越前国足羽郡深見村で、漢方医笠原龍齋の子に生まれる。

水野忠成老中1818＝9歳：この年、父が福井城下に移住し、開業。

父から医術の手ほどきを受けて育ち、

シホ<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>鳴滝塾1824＝15歳：藩の医学所(済世館)に入学を許され、本格的に漢方医学や本草学を学び、

日本外史・1827＝18歳：

シホ<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>追放・1829＝20歳：さらに、江戸に出て、著名な漢方医磯野公道に入門、

鼠小僧磔・1832＝23歳：福井に帰り、町医を始める。

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝27歳：この頃、加賀国山中温泉で湯治中、偶然、大聖寺の蘭方医大武了玄と知合い、西洋医学の長所を聞くと、

大塩平八郎乱1837＝28歳：

適塾ホ<sup>ノ</sup>ン・1838＝29歳：了玄に入門、オランダ語と蘭方医術を学んだ後、

勸進帳初演・1840＝31歳：この年から、2度にわたって、上洛し、緒方洪庵と並称された日野鼎哉の家塾に寄宿して、蘭学を研鑽、

天保改革弾圧1842＝33歳：この年、天然痘が大流行、福井藩内だけで1万人以上の小児が死ぬほどの被害もあって、天然痘の撲滅に情熱を燃やし、

阿部正弘首座1845＝36歳：この頃、\*清の邱浩川「引痘新法全書」により、牛痘で痘瘡(天然痘)が予防可能なことを知ると、オランダからの痘苗輸入は赤道越えがあって痛むことから、清国経由での痘苗輸入を思いつき、師鼎哉の賛同を得、その命で桐山元中の協力も得て、容器や漢文の説明書等準備万端整えると、

孝明天皇・1846＝37歳：帰藩して、藩主松平春嶽(慶永)に痘苗輸入を幕府に請願するよう訴える願書を提出、うやむやにされるところを、友人の藩重臣中根雪江の斡旋で、願書は春嶽に入れられ、幕府役人と下調整し、

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝39歳：ようやく、幕府に願書を提出、春嶽の親戚の老中阿部正弘自身が指示を出してくれ、輸入を待つうち、

北斎没・1849＝40歳：檜林宗建ら願いで佐賀藩が依頼していたオランダからの痘苗が長崎に輸入され、モーニックによって種痘に成功すると、穎川四郎八が自分の子にも種痘を受け、その痘苗を越前家用として日野鼎哉のもとに届け、桐山元中が接種に成功、その痘苗を入手し、自ら種痘を試みた。湯治の痘苗は人から人へと植えつぐ以外は保存の一法がなく、接種した子供たちを連れ、雪の栃ノ木峠を決死の覚悟で越え、福井に種痘をもたらす。その後漢方医の妨害があったが、北陸各地への普及に努めるうち、

尊徳報徳論・1851＝42歳：\*正式に藩営除痘館が設立され、

万次郎帰国・1852＝43歳：また天然痘が大流行すると、種痘を受けた子らが罹らないことを目の当たりにして、除痘館に群衆が押し寄せるに至ったが、痘苗を村々へ伝授すべく、隣村に植え継いで行く方法を考え、藩医登用を辞退し、

ペリー来航・1853＝44歳：

開国開港・1854＝45歳：

安政大地震・1855＝46歳：\*この年から、実行に移す。以後、町医として、種痘を広め、北陸一帯に恩恵をもたらして、

桜田門外変・1860＝51歳：

8月18日政変 1863＝54歳：

明治維新・1868＝59歳：

学問のすすめ1872＝63歳：

明治6年政変 1873＝64歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝71歳：没した。

号の白翁は牛痘のラテン語へハクシーネの漢字“白神痘”からとったという。

「人づくり風土記(福井)」、